

佐渡金銀山世界遺産登録

推薦書原案文化庁へ郵送

県、市感染拡大で訪問せず

県と佐渡市は30日、2022年の世界文化遺産登録を目指す「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」(佐渡市)の推薦書原案を文化庁へ郵送した。7月ごろに開かれる国の文化審議会で、20年度の国内推薦候補に選定されると有力視されている。

佐渡鉱山は15〜18年度の4年連続で国内推薦を逃し

た。18年度の文化審議会では「北海道・北東北の縄文遺跡群」を推薦候補としたが、政府は自然遺産の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」を推薦し、最終的に縄文遺跡群を選ばなかった。

19年度は縄文遺跡群のみを審議対象としたため、県と佐渡市は推薦書原案を提出せず、今年が2年ぶりの

提出となった。

18年度の文化審議会では、佐渡独自の世界的な価値を、より分かりやすく具体的に説明する必要性があるとされた。県世界遺産登録推進室は「前回の審査で出された課題に十分応えた内容になった」とした。

例年は副知事らが文化庁を訪ねて直接提出しているが、今年は新型コロナウイルスの影響で郵送とした。県と佐渡市は原案の到着を確認し、修正内容などを公表する。国内推薦は年1枠で、7月ごろに文化審議会が候補を決める。